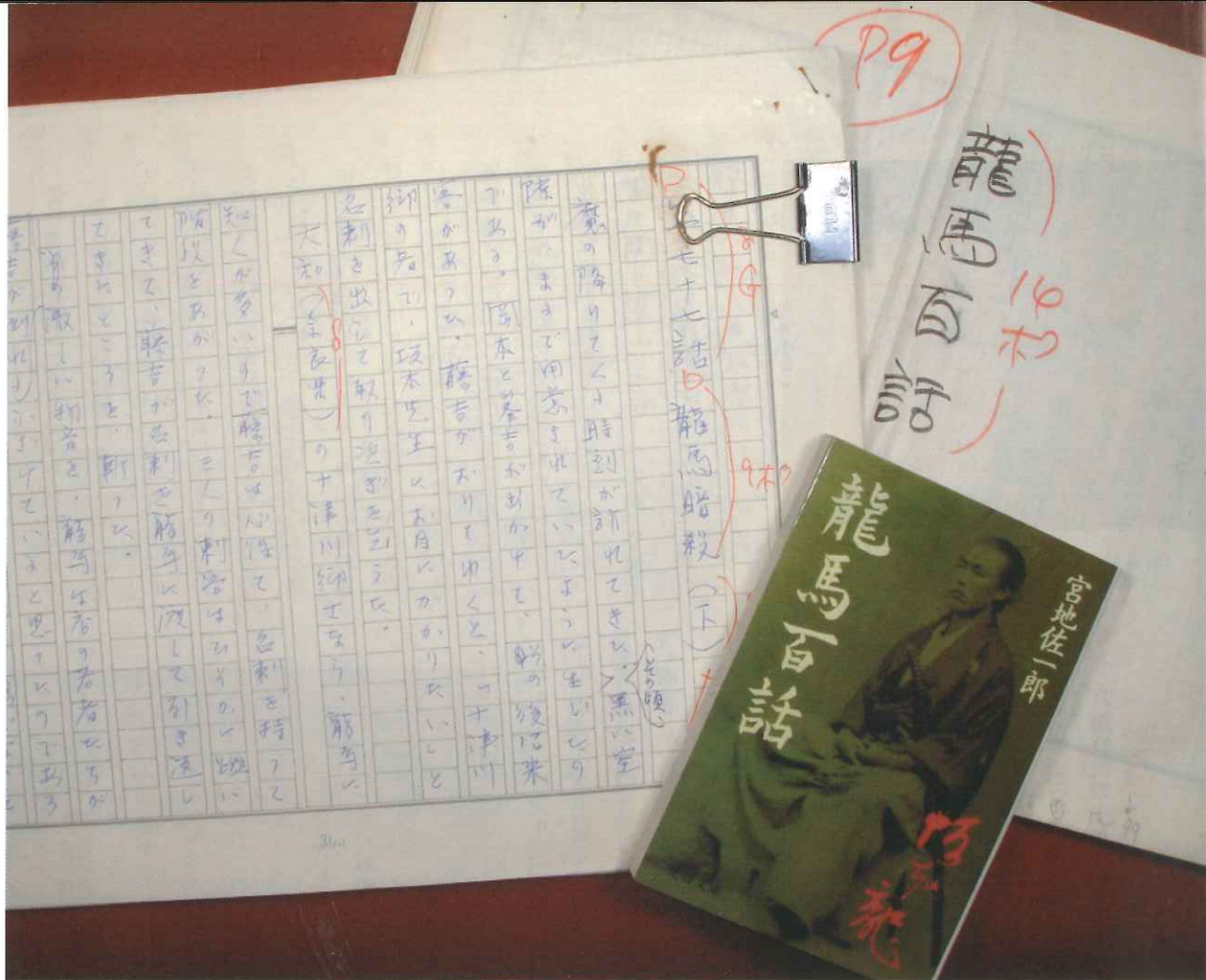


藤並の森

Vol. 37



▲『龍馬百話』とその原稿(※『龍馬百話』文春文庫は現在絶版)

リレー随筆

宮地佐一郎と土佐 — 小美濃

きよはる 清明

坂本龍馬研究家として知られる作家・宮地

佐一郎氏が平成十七年三月八日、他界された。

遺された原稿、書簡、蔵書、資料が夫人から
高知県へ一括寄贈された。二百数十箱に収めら

れた膨大なそれらは県庁文化推進課、教育委員
会、県立図書館、坂本龍馬記念館、文学館の方々

によって分類作業が昨年からすすめられてきた。

この程、一応の作業が終了し、出来上った分類
表を見てみると宮地氏の仕事は多岐にわたり、
交友関係は広範囲に広がっていたことが分かる。

初期、高知での文学青年時代は同人誌『無頼派』
『詩座』などに作品を載せていた。

中期、昭和二十七年、東京へ出た宮地氏は亀井
勝一郎のもと『詩と真実』の同人として作品を
発表していく舞台を与えられた。

昭和三十八年、大佛次郎との出会いが宮地氏
の後半生を大きく変えていくことになる。

『野中一族始末書』(審美社)が大佛の目に留ま
り、新人作家を励ますあたったかい手紙が送られ
てきた。そのあと、『關鶏絵図』(七曜社)『宮地
家三代日記』(光風社書店)『菊酒』(光風社書店)
と発表された作品は直木賞候補となった。

昭和四十三年、大佛次郎の絶筆となった『天皇の
世紀』の取材で高知を案内した宮地氏は、改めて

土佐の歴史へと傾斜していく。

後期、『坂本龍馬全集』(光風社出版)『中岡
慎太郎全集』(勁草書房)を頂点とする歴史ノン
フィクションの著作は広く一般に読まれ、今日
の龍馬ブームに寄与するところが大きいと思
われる。

『龍馬百話』(文春文庫)は龍馬入門書として
好評を博し、講談社学術文庫の『龍馬の手紙』
が最後となったが、百三十九通の龍馬書簡を収録
した第一級資料となっている。

長曾我部元親から坂本龍馬まで、この作品群
は宮地氏の中に流れる(土佐人の血)がその根底
にある。

土佐郷土史の平尾道雄氏から受けた学恩は
大きく、終生そのことを忘れることはなかった。
亀井勝一郎、大佛次郎この二人の大家に対し
ても、やはり同様であった。

ロマン・ロラン著『ジャン・クリストフ』の
名訳で名高い片山敏彦が宮地氏の親類にあたる
ことはあまり知られていない。(土佐人の血)と
共に香り高い文学を志すロマンチズムは、生涯
消えることなく宮地氏の中に在りつづけたよう
に思われる。

(ノンフィクション作家)

展覧会
紹介
SALVAGE

新収蔵資料展

館の資料収集は一九九三(平成五年)四月の

「文学館開設準備室」設置以来本格的に始まり、多くの方々のご協力により本年三月末の登録資料数は四万三千余点に達するに至りました。これらの資料を少しでも多く皆様にご紹介するため館収蔵資料のみによる展示会を随時企画しています。今回の館収蔵資料の展示会は、平成十五年四月二十九日から十七日間の会期で開催した「収蔵資料名品展」に続き四年ぶり二度目の開催となりました。「名品展」以後の新収蔵資料や、以前からの収蔵資料でこれまでにご紹介できなかった資料を中心として各テーマに添って展示しています。以下それぞれの内容をご紹介します。

宮地佐一郎関係資料

二〇〇五(平成十七)年三月八日に亡くなられた宮地佐一郎さんの旧蔵資料約六千点が妻真喜子さんからこのほど高知県にまわめて寄贈されました。宮地さんは一九二四(大正十三)年九月六日、土佐郡朝倉村(高知市朝倉)生まれ。高知師範学校を卒業、潮江小学校などで教鞭をとる傍ら詩誌「詩座」の創刊に参加するなど文学活動が続けました。

その後上京し五六(昭和三)年法政大学国文学科を卒業。歴史小説「野中一族始末書」(六三年審美社)で大佛次郎の高い評価をうけます。その後「闘鶏絵図」(六四年七曜社)「宮地家三代日記」(七十年光風社書店)「菊酒」(七二年光風社書店)が直木賞候補となりました。その他『坂本龍馬写真集』『龍馬百話』『岡田慎太郎』『坂本龍馬男の行動論』等多数の著書があり、また編述には大冊『坂本龍馬全集』『岡田慎太郎全集』があります。特に数多い坂本龍馬関係の著作は龍馬ブームの礎となるものであり、高知県の文化の向上、観光振興への貢献が評価され二〇〇二(平成十四)年に高知県文化賞が贈られました。寄贈資料の中から『大佛次郎私抄』『闘鶏

平成19年
6月16日(土)
▼
7月16日(月)
企画展示室
観覧料350円

絵図』『宮地家三代日記』『龍馬百話』などの生原稿、『宮地家三代日記』『菊酒』や龍馬・

慎太郎関係著作の執筆に関する取材・資料ノート。高知での詩作活動として「詩座」などの同人誌。また交流のあった作家、詩人からの書簡、収集した掛軸などの資料を展示して宮地さんの足跡をご紹介します。

近世土佐文学関係資料

一 土佐の尊王思想

京都出身で谷時中から儒学を学んだ江戸時代前期の儒学者山崎闇斎と、その山崎闇斎に師事し、土佐尊王思想の源流となった谷秦山に関する資料を展示しています。

二 土佐の国学者たち

儒者として藩政中枢で重きをなした秦山の孫真潮。その弟子中山巖水、今村虎成(楽)、楠瀬大枝、今村の弟子武藤平道、真潮の親友宮地春樹の子仲枝の弟子鹿持雅澄に関する資料を展示しています。

【谷真潮：短冊、今村虎成(楽)：書軸、中山巖水：短冊、楠瀬大枝：短冊、武藤平道：長歌小切、鹿持雅澄：書軸を展示】

▲谷秦山 書軸

慎獨

高知県立文学館
では、高知の文学
を中心に貴重な
資料の収集・保存
を行っています。
新たに収集した
資料や未開
資料を中心に
展示し、県土の
誇る財産として、
広くご紹介
いたします。

新収蔵資料展

平成19年 6月16日(土)～7月16日(月)
会期中無休

●観覧料：一般350円
●作家の声を聞く「森下南村」
6月24日(日)～7月4日(日)
6月24日(日)～7月4日(日)
入館無料・申込不要

●期間限定展示
●作家の声を聞く「森下南村」
6月24日(日)～7月4日(日)
6月24日(日)～7月4日(日)
入館無料・申込不要

●会館/高知県立文学館 2F企画展示室

会 覧 展
紹 介
Exhibition

新収蔵資料展

三 江戸後期、文人たちの交流

江戸時代は、社会が安定し武士が学問・芸術などの習得に励む様になりました。また生活にゆとりの出来た一般庶民も同様で、このような面で武士と庶民の間に一定の身分を越えた交流があったようです。これらの事を窺い知ることができる資料として、画人島本蘭溪、国学者で歌人・画人である楠瀬大枝、漢詩人日根野鏡水、俳人奥田楓斎、葛西鶴巢・五藤酒羅・松窓・細木鷺仙などに関する資料を展示しています。

【島本蘭溪：画幅、楠瀬大枝・日根野鏡水：画幅に賛、日根野鏡水編：『嗽玉吟社絶句』俳書『蓮の上』（五藤以三・酒羅関係）、奥田楓斎・葛西鶴巢・五藤酒羅・松窓・細木鷺仙：短冊を展示】

四 近世土佐の和歌の撰集『採玉集』

『採玉集』は、近世土佐の歌人たちの歌を、流派に偏らず広く集めたもので、初篇・後篇から成っています。これにより近世土佐歌壇を一望することが出来ます。編集は国学者で歌人の吉田正準とその子で歌人の孝継



▲月暁扇面

によって行われました。また、国学者で歌人の安並雅景は漢文、漢詩、和文、和歌のいずれにも優れ『採玉集』には一番多く四百四十首余りが採られています。

【吉田正準・孝継編：和歌集『採玉集』初篇（全四冊）、吉田正準・安並雅景：短冊を展示】

五 山内容堂の漢詩と書

異色の幕末土佐藩主山内容堂と容堂がその才を愛した漢詩人森田梅圃・詩僧月暁の遺墨を紹介しています。

【山内容堂：書軸二幅、森田梅圃・月暁：扇面を展示】

六 近世土佐の書芸

江戸時代の書芸には、一般に御家流と呼ばれる幕府公認の書風があり諸藩もこれに倣い庶民まで広く普及しました。一方詩文を愛する人々の間には中国風（唐様）の書が流行しました。土佐においても書を得意とする人たちが現れ屋代大軒、岩井玉洲、中山高陽、仙石九畹などが名を残しています。

【屋代大軒：書状、仙石九畹：臨「淳化閣帖」第九を展示】

近現代土佐の文学者資料

明治期から現代まで土佐文学界各分野で注目すべき業績を残した俳人・詩人・作家・研究者の中から、俳人では浜田波静、若尾瀾水。詩人では吉本青司、立仙啓一、川島豊敏、正木聖夫。作家では森下雨村、土佐文雄。研究者では岡林清水を取り上げました。また、現在書家として活躍中の沢田明子さんからご寄贈いただいた資料の中から特装本『おりふしに』『曼陀羅華』の二点をご紹介します。

（学芸課／島村長生）

平成19年
6月16日(土)
▼
7月16日(月)
企画展示室
観覧料350円

作家の肉声を聞く「森下雨村」

江戸川乱歩を世に送り出した、日本探偵小説育ての親・雨村の推理小説に対する考えとは—？

前回企画して好評を得た森下雨村の「推理小説今昔」をお聞きいただけます。

7月8日(日) 午後2時～3時

文学館ホールにて。入場無料・申込不要



連 関
企 画

いよいよ常設展リニューアル!

文学館ニュース藤並の森35号で紹介しました、常設リニューアルについての準備は、着々と進んでいます。7月23日(月)より、新しくなって開館いたしますので、ご期待ください。

展示はローテーション方式。
より深く、面白くなります。

「お客様の知的好奇心を刺激する展示」を目ざし、本年度は、高知県立文学館で顕彰している作家約40数名の中から、特に10名を選出しました。

「古典・近世文学」からは、土佐日記と鹿持雅澄、「自由民権運動と文学」からは、中江兆民と幸徳秋水、「反骨の大衆文学」からは、黒岩涙香と森下雨村、「近現代の文学」からは、小山いと子と倉橋由美子、「詩歌」からは、上田秋夫を中心に、「紹介しています。そして、「企画ゾーン」では、大原富枝を取り上げました。今回、近現代では、女性の文学者を中心に引き上げていくのが特徴です。もちろん、高知ゆかりの吉井勇、司馬遼太郎、大岡昇平、井伏鱒二、高浜虚子といった作家のコーナーも設けています。また、高知の文学の「今を伝える」新設コーナーでは、直木賞を受賞された、山本一力さんと坂東眞砂子

さん、詩人の嶋岡農さんといった作家や若手作家のご紹介をしています。

県民の皆様が親しみやすい文学館を目ざし、「静」から「動」へと移行する文学館、どうぞご期待ください。

閲覧室はこども室に。
民話を中心に、楽しく文学に触れられます。

長年親しんでいた閲覧室は閉室となり、新たに子どもたちも楽しめる文学館を目指し、「みんなあつまれ!こどものぶながく室」として生まれ変わります。

一番の見所は、土佐の民話コーナーです。文学館では「口承の文学」である土佐の民話を次世代に引き継いでいきたいと考え、土佐の民話でおなじみの市原麟一郎先生のご指導のもと、子どもたちに気軽に楽しく土佐の民話に触れてもらえるコーナーを設けました。



(学芸課/津田加須子・島田美和)

6月16日(土)～7月16日(月)

常設展示室 閉室
寺田寅彦記念室
(※企画展はご覧になれます。)

7月17日(火)～7月22日(日)

全館休館

7月23日(月)～
リニューアルオープン

※閲覧室は6月10日をもって
終了となりました。

土佐の民話には、「いごっそう(頑固者)」

や「そそくり(あわて者)」の主人公たちが活躍する楽しい「おどけ者」の話がいっぱい。そんな民話の主人公たちや、土佐の妖怪エンコウ・シバテンなどをパネルで紹介したり、各地域にある民話を一望できる楽しい「みんなマップ」の展示を予定しています。

その他、郷土児童文学作家の本を紹介するコーナーや、紙芝居の実演を行う「子ども劇場」などもありますので、ぜひ親子で遊びに来てください。



館長室から

溝渕 良一



4月から館長として勤めさせていただき、こととなり、早や3ヶ月が経ちました。

これまで文化行政に携わったこともなく、仕事上も文学にはおよそ縁のなかった身のため、新しいことを精一杯吸収しながらの毎日です。

さて、当館は平成9年11月に開館し、10年という節目の年を迎えています。私の就任前から展示のリニューアルの計画が進められていましたが、いいタイミングではないかと思えます。この館報が出るころは模様替えたけなわのことでしょう。

リニューアルのコンセプトは、「変わる常設展示」といったところでしょうか。基本的に変わらないのが「常設」のイメージだと思いますので、少し矛盾を感じられるかもしれません。

現在の展示は内容的に素晴らしいものであるとの高い評価を受けています。しかし、一方で「観覧して非常に疲れる」とか「長い間基本的な部分が変わらないので、再び来る気になりにくい」といった声も多くあります。

こういった声にどう応えるかがポイントだと思います。つまり40人の文学者の顕彰をベースとしながら、数人に焦点を当て厚く展示するとか、折に触れ、その入れ替えをするとか、展示を自在に変化させ、メリハリを付けていくことではないだろうかと思えます。なかには、あの作家に会えなかったという方もいらっしゃるかもしれませんが、それには別の方法での対応ができると思います。

紙面での分かり易い説明には限界がありますので、どう変わったか、ぜひご観覧いただければと思います。

次回企画展案内



この夏、アンと友達になろう！

カナダのプリンス・エドワード島は『赤毛のアン』の舞台として知られています。作者モンゴメリが「世界で一番美しい島」と言った美しい自然、アンが生き生きと駆け回った世界を、アウトドア写真家・和田悟氏の撮影した写真で紹介します。

アン・シャーリーは赤い髪のおさげ、そばかす、そして、好奇心に満ちた大きな瞳をもった女の子です。作者のモンゴメリはアンを活発で屈託のない少女として創造しました。



▲グリーンゲイブルスと花壇 (撮影／和田悟)

物語の舞台となったプリンス・エドワード

島は、穏やかな緑と風に揺れる色とりどりの花々、泉や並木道など魅力的な風景が続いています。アンは素晴らしい風景を見つけたに、自分で新しい呼び名を付けていきます。バーリーの池を「輝く湖水」、グリーンゲイブルスの果樹園から続く道を「恋人の小径」、小さな青々とした窪地を「すみの谷」などと、詩的な呼び名は読者のあこがれをかき立てます。和田悟氏の写真は、そのプリンス・エドワード島の様子を鮮やかに写し出しています。

素晴らしい写真を通して、アンの世界を感じていただきたいと思います。

物語に描かれた風景が今もそのままに残るプリンス・エドワード島を旅するような写真展をお楽しみください。なお、展覧会では、作者モンゴメリや、『赤毛のアン』を日本に初めて紹介した訳者・村岡花子のコーナーを設けます。村岡花子自筆の原稿や、『赤毛のアン』の初版本など、貴重な資料を展示いたします。アンの世界が生まれた背景をご覧ください。また、夏休み期間には親子で楽しめるイベントなどをたくさん企画しています。

アンは世界中で受け入れられ、日本でも多くの世代に読み継がれています。この夏、アンに出会いにいらっしやいませんか？

(学芸課／間城彩佳)

和田悟写真展「赤毛のアン」 プリンス・エドワード島への旅

・平成19年7月28日(土)～9月2日(日) 会期中無休 ・午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)
・高知県立文学館 2F 企画展示室 ・観覧料 350円(常設展含) ※高校生以下無料

■「親子で作る、アン」の夢のカード

開催日：8月4日(土)、5日(日)
各日とも午後1時～4時
場 所：高知県立文学館 1F 文学館ホール
内 容：「赤毛のアン」にちなんだ絵柄の仕掛けカードを親子で作ってみませんか？

参加料：当日観覧券が必要です

■朗読の会「赤毛のアンの世界」

開催日：8月18日(土) 午後2時～4時
場 所：高知県立文学館 1F 文学館ホール
内 容：カルチャーサポーターによる「赤毛のアン」の朗読
参加料：無料

■『赤毛のアン』コンサート

開催日：8月19日(日) 午後3時～4時
定 員：100名/事前に電話でお申し込みください
演 奏：ヴァイオリン・ヴィオラ / 武中淳彦氏
ピアノ / 大野日菜氏
参加料：当日観覧券が必要です

■「アンと友達になろう アンクイズ」

開催日：8月11日(土)～8月17日(金)
内 容：展覧会を観ながらアンに関するクイズを解こう！
参加料：当日観覧券が必要です ※正解者には素敵な賞品あり♪
定 員：なし ※当日いつでも参加できます

■「アン」の麦わら帽子を作ろう「幸せ花ざり」

開催日：8月26日(日) 午後1時～4時
内 容：アンが帽子に花を飾って遊んだように、麦わら帽子(子供用)に造花で花飾りをつけ、アンと麦わら帽子を作ります
参加料：当日観覧券が必要です

■「赤毛のアン」なりきりコーナー

開催日：展覧会期間中
内 容：アンをイメージした衣装をご用意しています。アンになりきって記念撮影しませんか？
参加料：当日観覧券が必要です

※この他、企画展担当者による展示解説もごさいます。開催日：7月28日(土)、8月11日(土)、8月25日(土) 時間：午後1時30分～(30分程度) 要観覧券

関連企画満載！

高知市北山仏瀬越え — 桂井和雄の民俗と文学 —

猪野 睦

桂井和雄が刊行日付のない「葛井和雄詩集 土佐山村」をだしたのは、今から七十年ほど前の日中戦争前夜だった。今ではかつての土佐山村も高知市になり、鏡川ダム沿いの西からの道と、正蓮寺越えの東からの道を、車で走れば、いずれも三十分ほどで弘瀬集落につく。

詩をかいていた桂井和雄が、土佐山村へ訓導兼小學校長となつて赴任したのは一九三四年、二七歳のときだった。当時、弘瀬集落へは高知市円行寺から仏瀬越えと呼ばれた北山の山道が往路だった。

詩集には山村の暮らしが綴られていたが刊行の辞にあたる「詩集『土佐山村』への小言」のなかに「弘瀬という峡谷の部落である。風習最も純朴。吊橋のほとりに学校がある」「ここに葛井和雄が校長として勤務してゐる」「山村詩情の一端である」。「仕事の暇々に鉄筆を握り小集を編んだのである。故に広く配付することをせず廿五部を以て初版を絶版とする」とあった。



▲昔がしのばれる川の流れと山峡

ガリを切り、地元で漉きあげた上質の土佐和紙に刷りあげ袋綴じにした丹念な菊判大きめの詩集だった。この二五部はだれに配られたものであったか。その一冊を偶然手にしたのは東京の古本屋だった。

山峡の学校前の川で皿を洗い、群れてくる小魚に残飯を流してやつたりする単身赴任の日常が綴られていた。「この道を跣足のナザレの人が歩いてゐる」ともかく、村民にしたわれたクリスチャン校長だった。村を歩き民俗資料も集める十年あまりの校長生活だったが、太平洋戦争末期の一九四四年、戦時下の言論出版集会臨時措置法によつてキリスト教的自由主義者として学校を追われ徴用された。

詩人、民俗学者として、晩年には柳田国男賞もつけた。先日、弘瀬をたずねてみた。昔のまの川の流れる山峡集落で、弘瀬小学校は統合で廃校、広い駐車場になっていた。

仏瀬越えといわれた山道の下を車でたどった。登り道にはイタドリが生え、道脇の良心市には地どのタマネギ、破竹が売られていた。頂上近くの長いトンネルを抜けると、眼下に一眺の高知市が見えた。おそらく半世紀をこす前、桂井和雄はこのトンネルの上近い峠を越え、円行寺へ下り、小高坂にあった自宅へ週末には帰るといふ暮らしを続けたのではなかったか。その四季を通じて歩いた年月が、民俗学を醸成させていく上で、どんなに貴重なものであったか、あらためて思った。

(詩人)

資料受贈報告

— 最近の寄贈資料から —
『温石合同歌集 第三集』



常山進他編
温石短歌会
A5版
一八九頁



受贈報告 (平成十九年三月～五月) 敬称略

▼今井嘉彦・「温石合同歌集 第三集 常山進他編 温石短歌会」▼豊島未来・「歌集」一人静 長崎和子著 現代短歌を考える会▼ひまわりの会・「ひまわり(雲母会員エッセイ集) 第三集 ひまわりの会編刊」▼春野町教育委員会・「春野町の史跡と文化財 春野町教育委員会編刊」▼童心社・「どんこんそつべえ たじまゆきひこ 童心社」▼片岡文雄・「PO二二四号収載 気質ということ (茨木のり子ノート) 片岡文雄 竹林館」▼龍馬研究会・「平成版龍馬の手紙まんが付 第一巻 龍馬研究会編刊」▼高知ペンクラブ・「高知文芸年鑑 第二十二号二〇〇七年版 高知文芸年鑑編集委員会編 高知ペンクラブ」▼沢英彦・「(詩集) 土地舟 沢英彦著 形象社」他 ▼香美市教育委員会・「刈谷我野遺跡Ⅱ 香美市文化財調査報告書 第一輯 香美市教育委員会編刊」▼高知市企画調整課市史編纂室・「高知市史研究 第四号 高知市企画調整課市史編纂室編刊」このほか、全国の個人・関係機関の方々から数多くの資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。

人事異動

新所属 旧所属

【転出】 理事 高知県牧野記念財団 (文学館館長)

前田 英博

【転入】

文学館館長 (商工労働部副部長(総括))

溝 洵 良 一

【新採】

学芸員 森 香奈子

一九四七(昭和二二)年十月、流派結社の垣根を超えて高知県内の短歌人・短歌愛好者が集まり「高知歌人クラブ」が結成されました。これは文化諸団体との交流と短歌の大衆化を図り新しい短歌運動を興すことを目指したものでした。歌誌「高知歌人」を発行し活動を続けてゆく中で県下短歌結社の統合体から一結社へと実態が変貌し当初の意図に添わない状況が生まれて来ました。このような中で一九九二(平成三年)三月、「高知歌人の先頭に立つて活動してきた歌人たちが新しい理念のもとに同志を集めて『温石短歌会』を結成しました。『温石合同歌集』は『温石短歌会』発足五周年の記念事業として一九九七年八月に第一集が刊行され、発足十年目となる二〇〇一年十一月に第二集、そして今年三月第三集が刊行されました。この歌集には同人八八名の歌が収載されています。

学芸員メモ

今年の四月から、学芸員として勤務しています。実家は奈良ですが、これまでは大阪府にある中高一貫の私立学校で、国語を教えていました。大学・大学院も同じく大阪で（専攻は中世文学です。また、教授の勧めで近現代のゼミにも入っていました）。高知に来るのは今回が初めてです。初めての土地で、新たな仕事を始めるにあたり、不安がないといえは嘘になりますが、学芸員として採用された喜びを、かみ締め、長年抱いてきた理想を実現するべく邁進したいと思っています。

さて、高知県立文学館では、六月十六日（土）から、新収蔵資料展を開催しています。そこで私は、近世土佐文学研究者である竹本義明先生のご指導のもと、「近世の部」を担当することになりました。慣れていないゆえの戸惑いや、これまでの不勉強を痛感しながらも、古典の展示を楽しみにしてくださる皆様や、これを機に興味を持ってくださるかもしれない方々を思い浮かべながら、よりよいものになるように努めていきます。

竹本先生には、当館で毎週火曜日に行われている「近世土佐文学研究会」でも、お世話になっています。研究会では、主に当館所蔵の写本や版本をテキストとし、ひとりひとりが原文のまま読み進めています。現在のテキストは「土佐国職人歌合」ですが、上巻を読み終え、下巻に入ろうかというところです。古文書読解レベルは上級としていますが、熱意のある方ならば参加可能ということですので、文学館の方へお問い合わせください。



（森 香奈子）



◆地区審査（公開）県内3会場◆

- 〈大方会場〉 大方あかつき館
・8月21日（火）午前10時30分～
- 〈安芸会場〉 安芸市民会館
・8月23日（木）午前10時～
- 〈高知会場〉 文学館ホール
・8月27日（月）午前9時～

◆県審査（公開）◆

文学館ホール 11月18日（日）午後1時～

表彰式
記念講演会
があります。

▲ 第9回の様子

県審査では、高知県出身のライトノベル作家・有川浩先生による記念講演会を行います。審査は公開となっております。記念講演会とあわせて入場無料ですので、頑張る子どもたちの応援のため、ぜひご来場ください。

（間城 彩佳）

イベント紹介

第10回朗読コンクール開催！
今年の講師は有川 浩先生！

毎年、県下の小中学生を対象に、文学作品の朗読を通して文学に親しむきっかけを作ろうと取り組んでいる朗読コンクールが、今年で10回目を迎えることとなりました。

夏に行われる地区審査で選出された児童生徒が、11月18日（日）の県審査に挑戦します。登場人物の気持ちやそのシーンの情景を思い浮かべながら朗読する子どもたちは、真剣そのもので、それぞれのイメージする作品世界を表現しようと、一生懸命です。

高知県芸術祭
文芸賞作品募集！

平成19年度高知県芸術祭では、

「第36回文芸賞」の作品を募集します。

【公募作品部門】

- ・短編小説 一人一編400字詰原稿用紙で10枚以内
- ・詩 一人一編400字詰原稿用紙で2枚以内
- ・短歌 一人3首以内
- ・俳句 一人5句以内
- ・川柳 一人5句以内

【募集期間】

平成19年8月1日～

平成19年9月30日（当日消印有効）

【注意事項】

- ・作品は未発表のもの
- ・応募者は高知県在住者
- ・全部門とも自由題
- ・文字は楷書で読みやすく表記
- ・短歌、俳句、川柳は官製ハガキで応募
- ・原稿用紙の場合は、1面に1文字を記入
- ・氏名（ペンネームがあれば併記）、現住所、電話番号、年齢、性別を明記
- ・応募作品は返却しません
- ・ご記入いただく個人情報、運営上の管理及び本人への連絡の用途に限り、利用いたします。ただし、入選作品については、在住市町村名及びお名前を公表します。

応募
問い合わせ先

〒781-8123

高知市高須三五三ー二
（財）高知県文化財団内

高知県芸術祭文芸賞係 あて

TEL 088-866-8013

企画展 案内

新収蔵資料展

平成 6月16日(土)～7月16日(月)
19年 (※会期中 休館日なし)

- ◆会場/高知県立文学館 2F企画展示室 ◆観覧料/一般350円
◆開館時間/午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)

高知県立文学館では、高知の文学を中心に貴重な資料の収集・保存を行っています。それらの中から、新たに収蔵した資料や未公開資料を中心に展示し、郷土の誇る財産として、広くご紹介いたします。



若尾潤水 色紙「甘喰意」

関連企画

作家の肉声を聞く「森下雨村 推理小説今昔」

前回企画して好評を得た森下雨村の「推理小説今昔」をお聞きいただけます。

日時：7月8日(日)14:00～15:00 場所：高知県立文学館 1F文学館ホール
※入場無料・申込不要(当日、開催時間にお越しください)



和田悟写真展「赤毛のアン」プリンス・エドワード島への旅

平成19年7月28日(土)～9月2日(日)

- ◆会場/高知県立文学館 2F企画展示室 ◆観覧料/一般350円(常設展含む)
◆開館時間/午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)



撮影/和田悟

世界中の人々に読み継がれている『赤毛のアン』。その舞台であり、作者モンゴメリが「世界で一番美しい島」と呼んだカナダのプリンス・エドワード島の自然とアンの世界を、アウトドア写真家 和田悟さんによる『赤毛のアンのカントリーノート』と『「赤毛のアン」の島へ』収録写真からパネルで紹介します。



親子で楽しめる関連企画満載! 詳細は5ページ目をご覧ください。

イベント 案内

文学館 朗読の会

8月18日(土) 午後2時～4時
文学館ホールにて **〈入場無料〉**

文学館朗読カルチャーサポーターによる
「赤毛のアン」の朗読をお楽しみください。

文学館 語りと紙芝居の会 定例会

毎月第2土曜日に開催中! 随時会員募集中!!
会長は土佐の民話でおなじみの市原麟一郎先生。

現在、民話語り部養成講座を開催中!
詳しくはお気軽におたずねください。

第10回 児童生徒 文学作品朗読コンクール

◆地区審査(公開) 県内3会場

〈大方会場〉大方あかつき館・8月21日(火)午前10時30分～
〈安芸会場〉安芸市民会館・8月23日(木)午前10時～
〈高知会場〉文学館ホール・8月27日(月)午前9時～

◆県審査(公開) **表彰式・記念講演会があります。**

会場:文学館ホール

日時:11月18日(日) 午後1時～

地区審査で選出された児童生徒の公開審査および
表彰式・記念講演会を開催します。



6月16日(土)～7月16日(月) 常設展示室・寺田寅彦記念室 **閉室** (※企画展はご覧になれます。)

7月17日(火)～7月22日(日) **全館休館**

7月23日(月)～

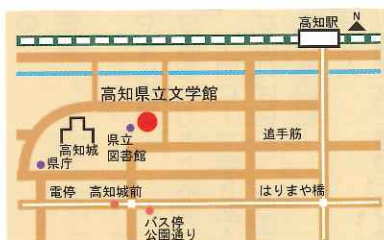
リニューアルオープン

※開覧室は6月10日をもって
終了となりました。

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時半まで)
休館日 なし
観覧料 一般350円
特別企画展のあるときは、料金が変わります。
20人以上の団体は2割引。高校生以下、高知県
及び高知市長寿手帳所持者及び身障者手帳、
療育手帳、障害者手帳、戦傷病者手帳及び被爆
者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。
なし。ただし近辺に有料駐車場があります。
駐車場 無し。
附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、閲覧室、茶室「慶雲庵」
貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

交通のご案内



- 高知龍馬空港より空港バスではりまや橋下車徒歩20分
- JR高知駅下車徒歩20分
- 土佐電鉄高知駅前下車北へ徒歩5分
- バス停公園通り下車北へ徒歩5分



〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目1-20
電話 088-822-0231
FAX 088-871-7857

E-mail: bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp
http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~bungaku/